

自由に巡る旅。まだ見ぬイタリアの魅力を満載。H.I.S.ツアー情報付き

ITALIA

巻頭特集

フィレンツェ
トスカーナ

Gokutabi

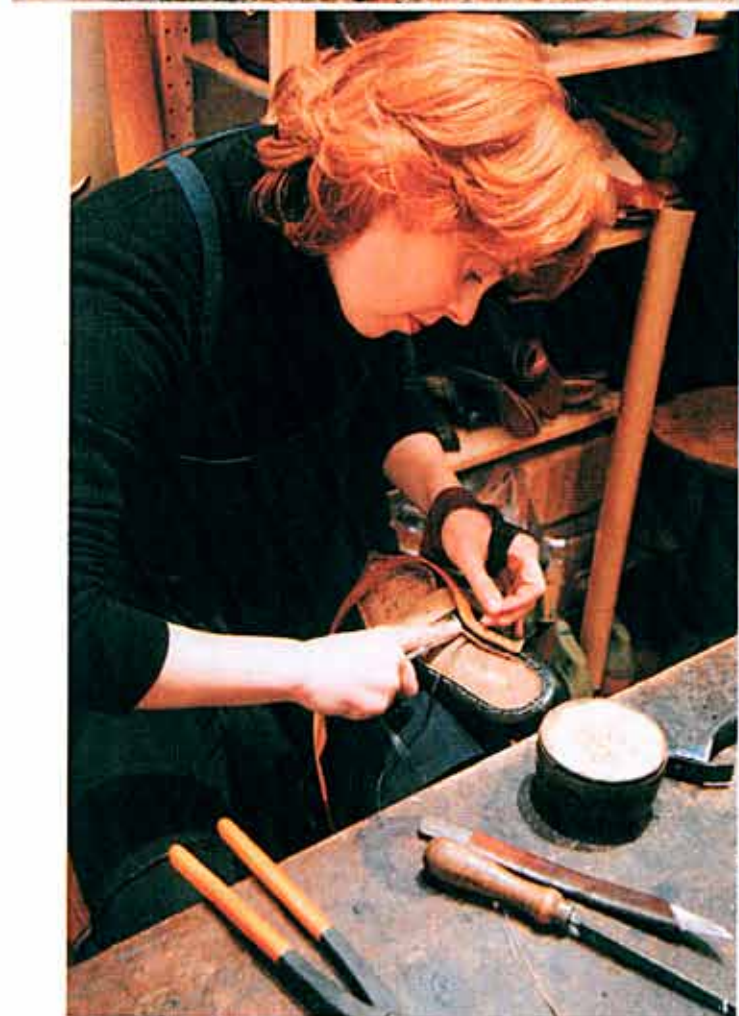
旅を極める人のトラベルマガジン

Sony Magazines Deluxe 2005年4月20日発行 第15巻第8号 通巻第505号

ローマ、ミラノだけではない
イタリアの懐の深さを知るマルケ州、アブルッツォ州

イタリア好き、 次はアドリア海へ

定価1380円(税込)



1 半永久的に保存される木型は一足€300。ここにはヨーロッパはもちろん、アメリカや日本などの顧客の木型が並ぶ。オーダーはメンズで€1,400〜、レディースは€1,000〜。来店して型をとったあと、3〜4ヶ月で試作品が送られてくるので、履いて感じた要望を添えて送り返す。すると、1〜2ヶ月後に完成品が送られてくる仕組み。2 木型に合わせて取った型紙。この型紙に合わせて革を裁断していく。3 木型に合わせて革を縫い合わせていく。靴底まで丁寧に手縫いしていくのが、サスキアさんのこだわり。そのため、長く愛用できる丈夫な靴ができあがる。4 ハードな革もスイスイと縫っていくサスキアさんの手仕事は、何時間見ても飽きない。1ヶ月に5〜6足しか作れないというのも、うなずける。5 牛の胃袋の革を使ったハイヒール(右)など、ユニークな素材使いにもサスキアさんのセンスが光る。ヒールの高さが変わると、木型も作り直さなければならないとか。



6 サスキアさんの自信作がオシャレにディスプレイされている店内は、狭いながらも落ち着ける空間。7 「靴のリペア屋さんと思われがちですが、1日に5人はいる」というアトリエ兼ショップの光景。大きなウィンドーに、赤がアクセントに使われ、小さいながらも目を引くので、見つけやすいはず。目印は、扉に描かれた木型のイラスト。

履く人のライフスタイルまで考
作られる、“10年履ける靴

Saskia

サスキア

イタリアに出かけたら必ず買いたいの、色やディテールにこだわりを見せる美しい靴。イタリアの有名靴ブランドの本店を数多く抱えるフィレンツェは、靴職人の腕の確かさには定評があるけれど、「靴の聖地」はイタリアだけにあらず。フォルムの美しさを追求するイギリスや、履き心地や足の健康にまで気を配るドイツも、靴を語るときに忘れてはならない場所。サスキアさんの出身地、ドイツ・ハンブルクでの師は、ロンドンで修行をつみ、今やドイツの靴職人の第一人者として君臨する。ベンジャミン・グレイマン。その元でドイツとイギリスの靴作りのイロハを学び、8年前にフィレンツェへ。世界的に有名な靴職人、ステファノ・バルマンの工房で働いた後、03年に独立したばかり。とはいえ、どんなに歩いても疲れない快適さと、デザインの美しさを両立させた靴は、すでに世界各国に顧客を持つほどの人気ぶり。きちんと手入れをして履けば、10年は持つので、自分のファッションスタイルが決まっている人なら、決して高くはない一足といえる。



こなれた手さばきで、黙々と作業を続けるサスキアさん。「女性用のヒール靴も作るけれど、得意なのはメンズライクなショートブーツ」と言い、顧客の80%は男性とか。どんな環境でどんなシーンで履くのかを計算して、その人にピッタリの一足を完成させる

サスキア ☎055-293291 @Via di S.Lucia 24r, Firenze 営業9時～13時、15時30分～19時 @日曜、8月中旬に2週間、クリスマス、1月の下旬。必ず電話で日時の約束してからお店にでかけて。日曜でも都合があればOKなこともあるそうなので、短い帯在でも諦めずに電話をしてみてください。